様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 ２１ 日現在

機関番号：１５４０１
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ１３２０６

研究課題名（和文）現代南アジアのイスラーム教育機関マドラサによって創出されるムスリムネスの研究

研究課題名（英文）A Study on Muslimness created by Islamic educational institution, Madrasa in Contemporary South Asia

研究代表者
日下部　達哉（KUSAKABE, TATSUYA）

広島大学・教育開発国際協力研究センター・准教授

研究者番号：７０５３４０７２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、研究期間内において、南アジアにおけるマドラサが、いかに「ムスリムネス（ムスリムらしさ）」のあるべき姿を創造しようとしているのかフィールドワークを中心に追及してきた。結果的に、マドラサのもつ教育的機能、社会的機能、政治的機能といった多面的機能が機能する中で、マドラサは、創り出すべきムスリムネスを慎重に考慮しながら日常的に行われるマドラサ教育、あるいは非日常である祝祭やデモ等の機会にそれらを普及しようとしていたことが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：The study has investigated by field work how madrasas in South Asia try to create "Muslimness"which is conceptualized as Islamic way in South Asian people within research period. As a result of the research, the study found that the Madrasas try to disseminate a newly created "Muslimness" which was considered within the multiple functions such as educational function, social function, and political function by using the opportunities of madrasa education, religious festivals and some political demonstrations.

研究分野：比較教育学

キーワード：ムスリムネス　南アジア諸国　マドラサ

１．研究開始当初の背景

現代のイスラームにとって、子どもや青年の教育を行うマドラサはきわめて重要である。なぜなら、発達したネットやマスメディアを通じ、先進国の情報が、イスラーム諸国の個人に直接届く。これを放置すれば、人々のムスリムネスは、先進国から発せられる圧倒的情報量の前に希薄化してしまう。そのためマドラサから積極的にムスリムネスを強調するような教育、実践、情報発信を、子ども・青年や村人、知識人、女性等あらゆる人々に対して日々行う必要があり、実際にも行われている。

しかし、先進国側では、イスラーム国、ナイジェリアのボコ・ハラムなどの出現といった、先鋭化したイスラーム関連事件のみが報道され、上記で述べたマドラサの日常が顧みられることはない。このアンバランスな状況を、是正していくには、こうしたマドラサが創り出す「あるべきムスリムの姿（ムスリムネス）とは何か」を総合した分析が、学界において議論されなければならなかった。そうでなければ先鋭化したセンセーショナルなイメージが流布、本来的なムスリムネスの具体像が結べないままとなるからである。

しかし、宗教教育機関であるマドラサの果たしている役割を総合的に捉え、誰に、何を、どうやって教育し、どこへむけて発信しようとしているのか、を明らかにした研究はなく、研究開始当初の状況では、多種多様な側面を持つマドラサの機能が、断片的に明らかになったにすぎなかった。このため、マドラサがムスリムネスをどう、現代のコンテクストに合うように洗練、発信しようとしているのか、大胆に総合して研究するという課題が導出された

２．研究の目的

そこで本研究では、「宗教教育機関の多面的機能研究」という新しいアプローチから、教育機能を中心とする、政治機能、経済機能などの多面的機能とその連関を調査することを通じて、マドラサにおけるムスリムネスの創出プロセスと普及プロセスを検証することを目的とした。

マドラサの中心的機能は、コーラン（イスラームの聖典）やハディース（預言者ムハンマドの言行録）の教育を子どもや成人に施す教育機能が中心であるが、貧困層の無償教育、マドラサ教員が冠婚葬祭の祈りを捧げる等の社会的機能も有し、時にはイスラーム政党の要請により、デモ隊形成をする政治的機能する。また一部例では生徒に思想教育を行い、戦士の前段階の教育を行う軍事機能も備える場合がある。

しかし先行研究は主に実証研究で、マドラサが宗教教育を通じ、何を創造し、誰に影響を与えようとしているのか、大胆に仮説生成を行う研究は皆無であった。

３．研究の方法

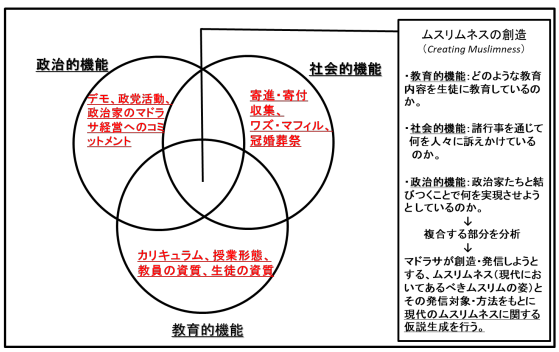
初年度から最終年度にかけて、インドのマドラサ、およびバングラデシュの大規模マドラサ、また村落部の小規模マドラサで、インタビューや資料収集などのフィールドワークを実施した。その際、マドラサの①教育的機能（カリキュラム、授業形態、教員の資質、生徒の資質）を中心に、②社会的機能（寄進・寄付収集、ワズ・マフィル、冠婚葬祭等）、③政治機能（デモ、政党活動、政治家のマドラサ経営へのコミットメント等）について、マドラサ校長・教師たちにインタビュー調査を実施、また、観察調査等を実施した。

さらにマドラサに子どもたちを送る側である農村部の人々にも聞き取り調査を行い、普通学校ではなく、なぜマドラサなのか、またマドラサに行かせるメリット、卒業・修了後の進路など、マドラサの隆盛を支える人々の意識がどのようなものなのかも調査した。

４．研究成果

研究開始時に、本研究の学術的特色としてあげた、マドラサの実証研究が行ってこなかった、教育的機能、社会的機能、政治的機能の３機能の複合部分の分析をもとに、マドラサにおけるムスリムネスの創造について、大胆に仮説生成していくことである。結果的に、マドラサのもつ教育的機能、社会的機能、政治的機能といった多面的機能が機能する中で、マドラサは、創り出すべきムスリムネスを慎重に考慮しながら日常的に行われるマドラサ教育、あるいは非日常である祝祭やデモ等の機会にそれらを普及しようとしていたことが明らかになった（下図参照）。以下では、各機能別に明らかになった点を示していく。

（図）マドラサの多面的機能を通じたムスリムネスの創造と循環



まず、教育的機能についてであるが、周知のとおり、マドラサは子どもたちにイスラーム教育を施すことが第一義的な機能である。ムスリムが９割を占めるバングラデシュにおいて、多くの人々が認可、無認可問わず子どもたちをマドラサに通わせている。普通学校教育とカリキュラムや修了証の共通化ができている認可マドラサ（アリアマドラサ）に

ついては、学校教育の修了証に加えて、イスラームの知識も学べるという点で、子どもを送ることに首肯できるが、無認可マドラサ（コウミマドラサ）については、修了証が社会で通用することはなく、いかなる理由で行かせるのかが調査の焦点の一つであった。この点に関する研究結果によれば、学校教育が必ずしもすべての子どもたちを包容できるわけではなく、学び方が暗唱中心である無認可マドラサのほうに親和的な子どもたちがいて、彼らの受け皿となっている点、また、無認可マドラサは、授業料が無償かきわめて安価なものであり、無償の寮もついている場合があり、貧困層の受け皿ともなっている。まず、教育的機能が、そうしたイスラーム教育の裾野を拡大し、ムスリムネス拡充の基盤をつくっていることは間違いない。

また、イスラーム教育によって培われたムスリムネスは、村人やコミュニティと接触する社会的機能の中で流布され、人々の間にムスリムネスとはなにかを知らしめ、イスラーム社会の基盤をつくっている。

さらに、政治的機能においては、デモなどにマドラサ生徒が参加する（させられる）ことによって、ムスリムネスの価値観をメディアに大きくアピールすることにもなる。こうした三つの機能の複合部分がムスリムネスの創造の源泉であり、歯車のように相互に関連しながらイスラーム的な価値を紡ぎだしていることが明らかとなった。

こうした「動き」のあるイスラームの活動は、バングラデシュにおいて、他のイスラーム復興運動、つまりそれは時にヒンドゥー文化との混淆を否定するような動きにつながり、イスラームの純化を促進している。マドラサが単に教育的機能を持つだけなら、普通学校教育がこれだけ隆盛するなか、増加傾向を維持することは難しいと考えられるが、マドラサ、特に無認可のほうに着目し、政治的機能、社会的機能、およびその連関を考え合わせると、マドラサは、源泉としてのムスリムネス創造、そしてその社会的波及に関する仕組みを有しており、ムスリムに対する訴求ができていると考えられる。

また研究当初より一つのリサーチ・クエスチョンであった、ムスリムネスの創造に端を発するイスラーム復興運動が、「情報のグローバル化」にいかに対峙、対応、妥協、融合しているのかについては、単にマドラサに通わせて教育を施すだけではなく、断食や、ワズ・マフィルといったイスラームの祭礼、儀式等にマドラサの諸活動を絡めることによって、人々の中でかなりの程度「実質化」する（例えば六信五行をはじめとするムスリムとしてのふるまいや、ヤギ、牛の生贄など）。これにより、インドやバングラデシュの農村部においては、テレビやインターネットを通じてもたらされる、あくまで幻想でしかないグローバル化よりも、ムスリムであることの自覚や、死後の世界観の維持などといったイスラーム的価値観を維持することにつながり、グローバル化への憧憬があくまで憧憬としてしか機能しない、つまり限定効果であることに対し、上記のようなムスリムネスの創造から、イスラームの実質化プロセスといったイスラーミゼーションは、やはり相当程度、実態を伴ったものとして、ある種「魔法の弾丸モデル」になりえていると考えられる。

こうした「弾丸」は日々、あるいは定期的に人々の生活に実態を伴った形で打ち込まれており、人々がイスラームに対し、遅れている宗教だと思ってしまわないようにイスラーム権威の側による様々な見解が情報交換され、またマドラサにおいて人々に伝わりやすいように加工され、「実質化」に貢献している。

本研究には、そうしたイスラーミゼーションの内部で起こっている教育的営み～社会波及～イスラームの実質化を描き、比較教育学とイスラーム地域研究を架橋した点が包含され、そうした点にオリジナリティがあるといえる。

これらの成果については、後述する日本、及び世界学会において発表され、上述した三点からなる、多面的機能の複合部分を重ね合わせて分析、マドラサで日々創造されるムスリムネスが、どういう方法で、誰にむけて発信されるかを析出した結果を学界に対して打ち出すことができた。

また最も大きな学術的特色として挙げた、マドラサに関する実証研究が行ってこなかった、上記３機能の複合部分の分析をもとに、マドラサにおけるムスリムネスの創造を、大胆に仮説生成していくこと、また、グローバルな情報や概念に接触している、ごく一般の現代ムスリムに対し、マドラサはいかに向き合い、ムスリムネスを創造・発信しようとしているのかという、可視化されていない部分を研究するという斬新性も打ち出した。

本研究があったことにより、インドのムスリムがなぜイスラームの価値観を大切にした低額費私立学校（Low fee private school）を選択するのか、考察する足掛かりとなり（下記論文③）、イスラーミゼーションを促進するための諸活動をつなぐボランタリー・アクションを考えるための理論的基盤を提供した（下記発表①）。また、一般的な市販書にも、本研究の成果は掲載され（下記図書①、②）、イスラームに対する歪んだ情報や報道を、ムスリムの日常生活を描くことによってバランスをとる、という、本研究における所期の目的を達成している。

本研究の成果をベースとして、2017 年度より、より広範な国際地域間比較を目的とした、科学研究費補助金（基盤 B）「ムスリム居住地域における主体的なイスラーム教育改革に関する地域間比較研究」に、研究内容を引き継ぎ、アジア・アフリカの 10 か国、地域に

おいて、世界のムスリム居住地域で、いかにイスラーム教育を施す側が自らの現状をとらえ、自覚し、自ら改革を施そうとしているのかという、大規模な比較調査・研究が着手されることとなっている。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）
①Asim Das and Tatsuya KUSAKABE (2018) Implementation of Peer Tutoring Method in a Classroom in Harowagat in Rural Bangladesh, FY 2017 United Nations University grants for Global Sustainability Development of the Inclusive Education System Model for Learning Improvement in Developing Countries: The Report of UNU-IAS-UNESCO-CICE Joint Symposium "Sustainable and Inclusive System Model for Educational Development", Center for the Study of International Cooperation in Education (CICE), Hiroshima University, pp.92-99.（査読無、論文）

②Manjuma Akhtar Mousumi & Tatsuya Kusakabe (2017) "The dilemmas of school choice: do parents really 'choose' low-fee private schools in Delhi, India?", Compare (DOI: 10.1080/03057925.2017.1401451)Vol.47, pp.1-19.（査読有、論文）

③日下部達哉（2015）「バングラデシュにおけるデモクラシー実現と教育の関係性―拡充された教育制度と職業の接続に焦点を当てて」、『現代インド研究』第５号、pp.109－126.（査読有、研究ノート）

〔学会発表〕（計３件）
①日下部達哉(2018)「バングラデシュの宗教教育におけるボランタリー・アクションと政治―『ボランティアする』バングラデシュの人々」、第19回国際ボランティア学会、筑波大学東京キャンパス、2018年3月3日.

②日下部達哉(2016)「現代南アジアにおけるムスリムネスの創造とその普及プロセス-ポストグローバル化期における無認可マドラサのゆくえ」、第52回日本比較教育学会、大阪大学、2016年6月16日.

③Tatsuya Kusakabe(2016) Creating Muslimness and its Propagation in South Asian Countries, 10th Biennial Conference of Comparative Education Society of Asia, De la sar University, Phillipines,29th Jan 2016.

〔図書〕（計２件）
①日下部達哉（2017）「中等教育と高等教育-教育の質低下と私立大学の勃興」、大橋正明・村山真弓・日下部尚徳・安達淳哉編著『バングラデシュを知るための66章』明石書店、pp.230-235

②日下部達哉（2016）「バングラデシュにおけるマドラサ教育の複線性と多様性」、押川文子・南出和余編著『「学校化」に向かう南アジア―教育と社会変動』昭和堂、第10章所収.

〔産業財産権〕

○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
https://kusakabezemi.wordpress.com/2016/04/03/%E6%97%A5%E4%B8%8B%E9%83%A8%E5%87%86%E6%95%99%E6%8E%88%E3%83%97%E3%83%AD%E3%83%95%E3%82%A3%E3%83%BC%E3%83%AB/

６．研究組織
(1)研究代表者
日下部　達哉（Kusakabe, Tatsuya）
広島大学教育開発国際協力研究センター
研究者番号：70534072

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：

(4)研究協力者

(　　)